

# ON THE ROAD

久留米市立屏水中学校3学年進路通信 No. 4

2021. 5. 19 文責 保坂圭祐

## 「屏水のあたりまえ」が“あたりまえ”に なっているだろうか？

梅雨の季節となりました。「雨が降るとじめじめし  
いやだな」と思う人もいると思いますが、農作物  
を育てている人にとっては「恵みの雨」となるため、  
ものごとをいろんな角度から見ることは大事だなと  
思います。



さて、先日の進路説明会を受けて、第1回進路希望調査を提出してもらい、  
来春の進路について考え始めていることだと思えます。それと同時に、毎年  
のことではありますが、学校説明のパンフレットやオープンキャンパスの予定等  
を持って、すでに十数校の高校の先生方が来校されています。そこで、ある高  
校の先生に対応した時に感じたことを今回は書こうと思います。

校長室で高校の先生のお話をうかがい、先生を玄関までお見送りした時の  
ことです。時間帯は掃除の時間で、校長室前の廊下では何人かの生徒が掃除を  
していました。高校の先生が廊下を歩いて玄関に向かうまで、掃除をしていた  
生徒は先生に気がついていたので、誰一人あいさつをしなかったのです。  
この時、「ここが田主丸中と屏水中との大きな違いだな」と感じました。この  
場面が田主丸中であれば、ほぼ100%、生徒はあいさつをしていたと思いま  
す。というのは、田主丸中では、「元気でさわやかなあいさつをする」ことが  
「田主丸のあたりまえ」になっていて、高校の先生に限らず、来校された方や  
地域の人からも「田主丸中の生徒はよくあいさつしますね」と日頃から言っ  
てもらっているからです。

そもそも、あいさつは見返りを要求するものではないと思いますし、あ  
いさつされてイヤな気持ちになる人はいないと思います。屏水中の生徒は、  
決してあいさつをしないわけではありませんが、「自分から”あいさつを  
する」という部分が足りないのではと思います。

そして、今回は別の話題をもう一つ紹介します。

## ビーカーの中のカエルになっていないだろうか？

これは、人に聞いた話です。二つのビーカー（A、B）を用意し、Aに  
は熱湯を、Bには水を入れます。そして、それぞれのビーカーに生きたカ  
エルを入れます。熱湯が入っているAのビーカーに入れられたカエルは、  
熱湯に驚いてあわてて外に飛び出しますが、水が入っているBのビーカー  
に入れられたカエルは、そのままビーカーの中に入ったままです。しかし、  
Bのビーカーをアルコールランプで徐々に熱していくと、中にいるカエル  
は水の変化に気がつかず、眠るように死んでしまうのだそうです…

さて、カエルをあなたに、ビーカーをクラス  
や学年、学校に置きかえて考えてみてください。  
周囲でおかしなことは起こっていないでしょ  
うか？また、そのおかしさに気がついているで  
しょうか？おかしさに気がついていても、誰か  
が何かしてくれることを待っていないでしょ  
うか？今回は、二つの話を通して、今の自分をふ  
り返ってほしいものです。

